

3
南北の王
聖徒伝 116

「混沌の時代の 希望とは？」

列王記第一 15～16章 イスラエル・ユダの分断の定着

アウトライン

0. イントロダクション

I. 南の王たち 15章1～24節

II. 北の王たち 15章25～34節

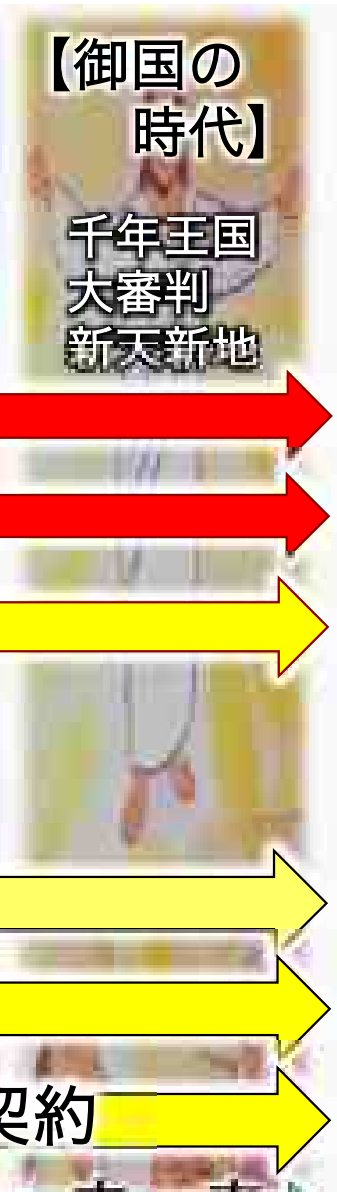
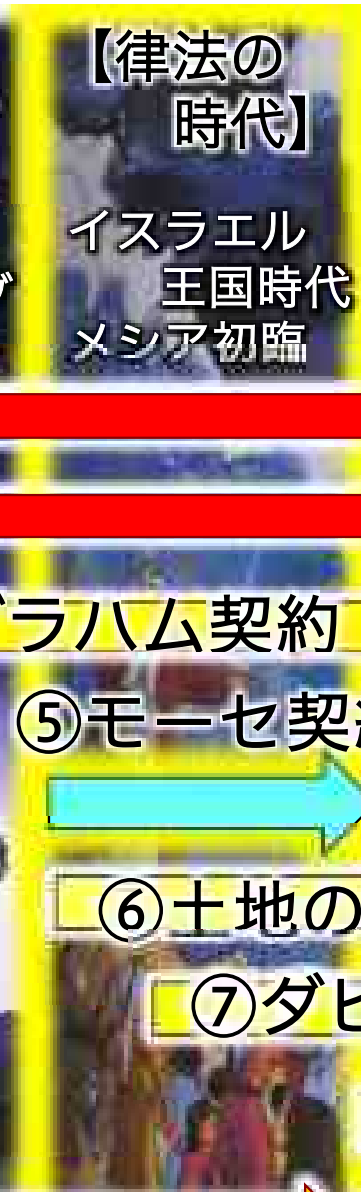
III. 混迷を極める北王国 16章

IV. まとめと適用

混沌の時代に希望を見いだすために



イスラエルの荒野



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

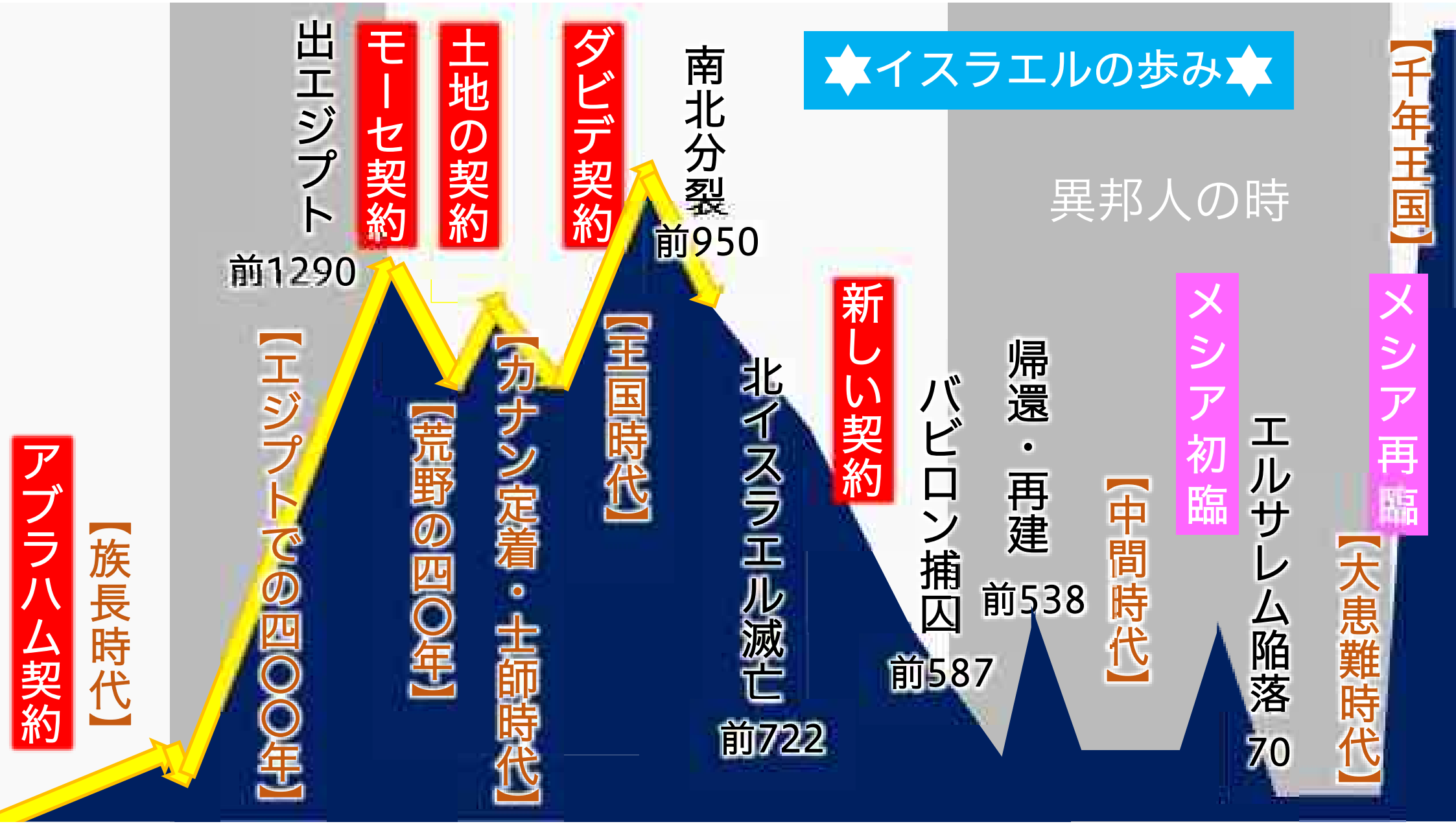
過去

現在

未来

どの時代も
神の約束が礎にある

★イスラエルの歩み★



アブラハム契約

【族長時代】

前1290

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡
前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落
70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バアシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ ホセア	
	2〜13章	預言者エリシャ			
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			

★北王国は10王朝に19人の王
★南王国は1王朝に20人の王

	ユダ(南王国)	南の預言者たち	北の預言者たち	イスラエル(北王国)
BC933	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ			★ヤロブアム…ナダブ
BC850	ヨラム アハズヤ アタルヤ	オバデヤ	エリヤ エリシャ	★バアシャ…エラ ★ジムリ ★オムリ …アハブ …アハズヤ …ヨラム
BC800	ヨアシュ アマツヤ ウジヤ(アザルヤ) ヨタム アハズ	ヨエル		★エフー …エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ ★シャルム
BC700	ヒゼキヤ	イザヤ	アモス ヨナ ホセア	★メナヘム …ベカフヤ ★ベカ
BC722	マナセ アモン ヨシャ	ミカ		★ホセア
BC600	エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	ナホム ハバクク エゼキエル		アッシリア捕囚 BC722

★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

ソロモンの罪の結果としての南北分裂

■ ソロモンは、異教徒の妻を多く娶り、妻たちの**偶像礼拝**を認め、老年には、自らも偶像礼拝に取り込まれ、主から離れてしまった。

➔ 律法を熟知し、知恵を得、神の直接の警告を二度も受けながら。

■ 裁きとして、ソロモン王の死後の**イスラエルの分裂**が宣告された。

➔ “都の破壊と約束の地からの追放”という最悪の事態は回避。

■ 宣告通り、息子レハブアムの即位式の時に、王国は**南北に分裂**した。

➔ 厳しい裁きの前の猶予期間として、南北時代が続いて行く。

北王国のヤロブアム と 南王国のレハブラム

- ソロモンの家臣だった**ヤロブアム**は、預言者アヒヤの預言通り、**北王国、イスラエルの十部族の王**となった。
- 主の律法に従う限り、繁栄は約束されていたが、猜疑心に囚われ、領内に金の子牛を設置し、偶像礼拝を北王国にはびこらせた。悔い改めもなく、一族の滅びと、北王国の滅亡を告げられた。
- 南王国の王**レハブアム**は、終始、偶像礼拝に陥っていた。
- エジプトに神殿の金を奪われ、銅を代替物としたように、信仰も、王政も、ソロモン時代から劣化していくばかりだった。



I. 南の王 アビヤム～アサ

I 列王記15～24章

ユダの荒野の羊

北王国 イスラエル

【ヤロブアム王朝】

ヤロブアム

22年

ナダブ
2年

【バシャ王朝】

バアシャ

24年

エラ
2年

ジムリ
7日

イゼベル

【オムリ王朝】

オムリ

12年

アハブ

22年

アハズヤ
2年

二代目の王は
どちらも短命

最初の善王

南王国 ユダ

レハブアム

17年

アビヤム
3年

アサ

40年

ヨシャパテ

25年



南2アビヤム アビヤム王 | 列王記15:1~3

ネバテの子ヤロブアムの第十八年に、**アビヤム**がユダの王となり、エルサレムで三年間、王であった。彼の母の名は**マアカ***といい、**アブサロム***の娘であった。

彼は、かつて自分の父が行ったあらゆる罪のうちの歩み、彼の心は父祖ダビデの心のように、彼の神、【主】と一つにはなっていなかった。

*“主は父” or “海は父”

→聖書で海は象徴的には異邦人世界を指すが…。

*重苦しい。抑圧。…偶像礼拝者だった。

*ダビデの息子。…王座を奪った後、悲惨な最期。



アブサロムの死

南2アビヤム ダビデ契約の恵み | 列15:4~5

しかし、ダビデに免じて*、彼の神、【主】は、彼のためにエルサレムに一つのともしびを与えて、彼の跡を継ぐ子を起こし、エルサレムを堅く立てられた。それは、ダビデが【主】の目にかなうことを行い、ヒッタイト人ウリヤのこと*のほかは、一生の間、主が命じられたすべてのことからそれなかったからである。

*ダビデへの主の約束が南王国を守っていく。

*姦淫と殺人。ダビデの生涯唯一の汚点だが…。

➔悔い改めてダビデが罪ゆるされたと分かる。



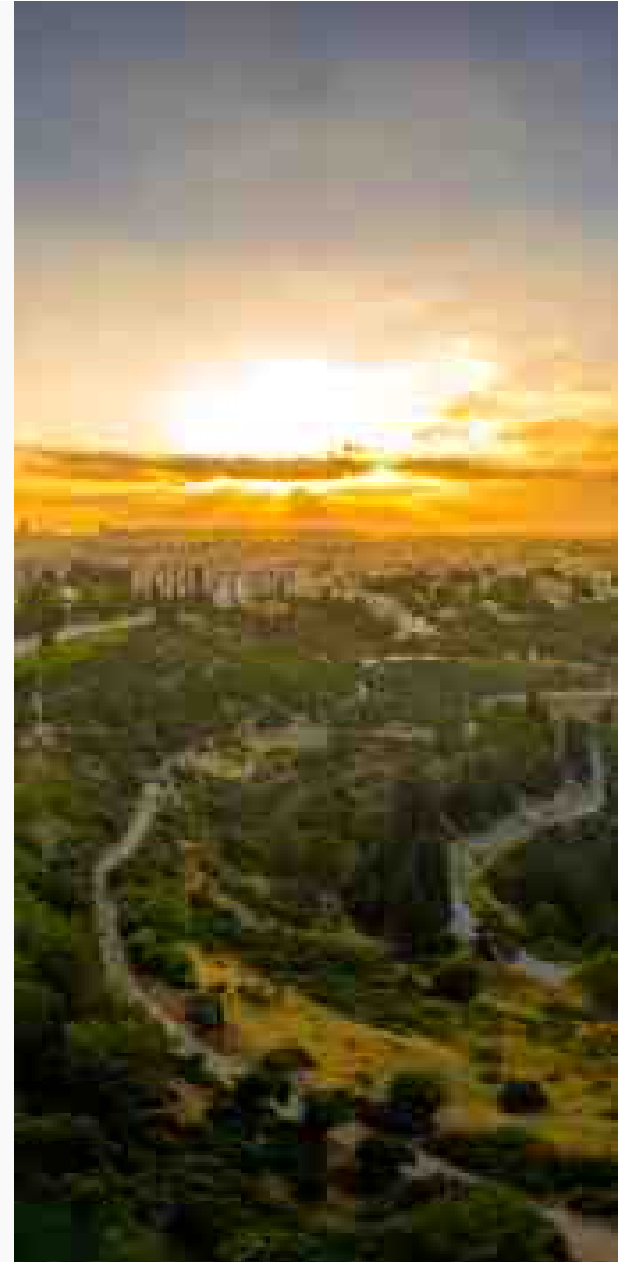
南2・アビヤム 治世と死 | 列王記15:6~8

レハブアムとヤロブアムの間には、彼の一生の間、戦いがあった*。アビヤムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。アビヤムとヤロブアムの間には戦いがあった*。

アビヤムは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をダビデの町に葬った。彼の子アサが代わって王となった。

*父子二代に渡るヤロブアムとの戦いが強調!!

➡南北の分断、対立は深まる一方だった。



南3・アサ アサ王 | 列王記15:9～11

イスラエルの王ヤロブアムの第二十年に、ユダの王アサ*が王となった。

彼はエルサレムで四十一年間、王であった。彼の母の名はマアカといい、アブサロムの娘であった。

アサは父祖ダビデのように、【主】の目にかなうことを行った。

*“癒す者”

■母マアカ、兄弟アビヤムは偶像礼拝者だったが、アサは、南王国最初の信仰に立つ善王となった。



南3・アサ 信仰回復 | 列王記15:12~13

彼は神殿男娼*を国から追放し、先祖たちが造った偶像をことごとく取り除いた。

また、母マアカがアシェラ*のために憎むべき像を造ったので、彼女を皇太后の位から退けた。アサはその憎むべき像を切り倒し、これをキデロンの谷*で焼いた。

*レハブアムの治世から異邦人の悪習が定着。

*カナンの偶像。豊穡の女神。バアルの妻

*エルサレムとオリーブ山の間谷



母親も退位させる
徹底した姿勢

南3・アサ 信仰者アサ | 列王記15:14~15

高き所*は取り除かれなかったが、アサの心は生涯、【主】とともにあり、全きものであった。

彼は、父が聖別*した物と自分が聖別*した物、銀、金、器を、【主】の宮に運び入れた。

*ソロモンの時、オリーブ山に築かれた祭壇の他、領内のあちこちに残っていた。

→ギブオンなど主の祭儀の場所もあったが、多くは、カナンの偶像礼拝の影響。

*神に献げ、神のものとしたということ。



南2・アサ 北との戦い | 列王記15:16~17

アサとイスラエルの王バアシャの間には、彼らが生きている間、戦いがあった。

イスラエルの王バアシャはユダに上って来て、**ラマ***を築き直し、ユダの王アサのもとにだれも出入りできないようにした。

*サムエルの出身地。ベニヤミン族の町。

■南王国の領内であり交通の拠点の町ラマ。

➡ラマを押さえられ要塞化すると物流も分断

➡喉元に刃を突き立てられたアサ王!!



北王国 イスラエル

【ヤロブアム王朝】

ヤロブアム

22年

ナダブ
2年

【バシャ王朝】

バアシャ

24年

エラ
2年

ジムリ
7日

オムリ

12年

イゼベル

【オムリ王朝】

アハブ

22年

アハズヤ
2年

最大のライバル

南王国 ユダ

レハブアム

17年

アビヤム
3年

アサ

40年

ヨシャパテ

25年

南3・アサ アラムへの派遣 | 列王記15:18

アサは、【主】の宮の宝物倉と王宮の宝物倉*に残っていた銀と金をことごとく取って、自分の家来たちの手に渡した。アサ王は、彼らをダマスコに住んでいたアラムの王、ヘズヨンの子タブリンモンの子ベン・ハダド*のもとに遣わして言った

*主の宮の宝物は、主に献げられた主のもの!!

→主の宝物を取り引きの道具にしてしまった!!

*“偽りの神の子”

■北王国と対抗するために仇敵アラムに!!



南3・アサ アラムとの交渉 | 列王記15:19

「私の父とあなたの父上の間にあったように、私とあなたの間にも盟約*を結びましょう。ご覧ください。私はあなたに銀と金の贈り物をしました。どうか、イスラエルの王バアシャとの盟約を破棄して、彼が私のもとから離れ去るようにしてください。」

*ソロモン時代は、アラムが属国だった。

➡ここでは、アラムの庇護を求めている。



現在のダマスコ

南3・アサ アラムの北侵 I 列15:20~21

ベン・ハダドはアサ王の願いを聞き入れ、自分の配下の軍の高官たちをイスラエルの町々に差し向け、イヨンと、ダンと、アベル・ベテ・マアカ、およびキネレテ全域とナフタリの全土を攻撃した。

バアシャはこれを聞くと、ラマを築き直すのを中止して、ティルツァにとどまった。

- ベン・ハダドが攻撃したのは、倉庫の町々。富の略奪が目的だったと分かる(II 歴16:4)



南3・アサ

Ⅰ 列王記15:22

そこで、アサ王はユダ全土にもれなく布告し、バアシャが建築に用いたラマの石材と木材を運び出させた。アサ王は、これを用いてベニヤミンのゲバとミツパを建てた。

■ アサは、ラマを取り戻し、バアシャが持ち込んでいた資材を用いて、領内のベニヤミン族の町、ゲバとミツパを要塞化した。

→結果だけを見れば大成功だが…。



南3・アサ アサの死 | 列王記15:23～24

アサのその他のすべての事柄、すべての功績、彼が行ったすべてのことや彼が建てた町々のこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。ただ、彼は年をとってから、両足とも病気になった*。アサは先祖とともに眠りにつき、先祖とともに父ダビデの町に葬られた。彼の子ヨシャファテが代わって王となった。

*主に頼らずアラムに頼ったため（Ⅱ歴16章）

➡アサ王の生涯の詳細については、

次週・番外編で歴代誌第二14～16章から!!





II. 北の王 ナダブ～バアシャ | 列王記15章25～34節

北部の山地

北王国 イスラエル

【ヤロブアム王朝】

ヤロブアム

22年

ナダブ
2年

【バアシャ王朝】

バアシャ

24年

エラ
2年

ジムリ
7日

オムリ

12年

イゼベル

【オムリ王朝】

アハブ

22年

アハズヤ
2年

ヤロブアム以上の
長期政権

南王国 ユダ

レハブアム

17年

アビヤム
3年

アサ

40年

ヨシャパテ

25年

北2・ナダブ ナダブの罪 | 列王記15:25～26

ユダの王アサの第二年に、ヤロブアムの子ナダブ*がイスラエルの王となり、二年間イスラエルの王であった。

彼は【主】の目に悪であることを行い、彼の父の道に歩み、父がイスラエルに犯させた罪の道を歩んだ。

*“気前が良い” “寛大”

➡偶像に寛大なら、大問題!!

ナダブも父ヤロブアムの罪の道に歩んだ。



エフライムの山地

北2・ナダブ 謀反 | 列王記15:27～28

イッサカルの家のアヒヤの子バアシャ*は、彼に謀反を企てた。バアシャはペリシテ人のギベトンで彼を討った*。ナダブとイスラエル全軍はギベトンを攻め囲んでいたのである。

こうして、バアシャはユダの王アサの第三年にナダブを殺し、彼に代わって王となった。

*“邪悪な”

*ペリシテのギベトンの攻城戦の最中に、自軍の王を殺害したバアシャの邪悪さ。



北2・ナダブ 神の裁き | 列王記15:29~30

彼は王となったとき、ヤロブアムの全家を討ち、ヤロブアムに属する息ある者を一人も残さず、根絶やしにした。【主】がそのしもべ、シロ人アヒヤを通して言われたことばのとおりであった。

これはヤロブアムが犯した罪のゆえ、またイスラエルに犯させた罪のゆえであり、彼が引き起こしたイスラエルの神、【主】の怒りによるものであった。

■主は邪悪なバアシャを裁きの器として用いた。

➡ナダブの治世の記述は、殺されたことだけ!!



ペリシテの地

北2・ナダブ | ナダブの死 | 列王記15:31～32

ナダブについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

アサとイスラエルの王バアシャの間には、彼らが生きている間、戦いがあった*。

*北王国と南王国の戦争状態は、

各王の治世で、繰り返し記述。

→最初のヤロブアムとレハブアムの対立は、その後の王の時代にも継承されていく。



エフライムの岩場

北3・バアシャ 罪の道 | 列王記15:33~34

ユダの王アサの第三年に、アヒヤの子バアシャがティルツァ*で全イスラエルの王となった。治世は二十四年であった。

彼は【主】の目に悪であることを行い、ヤロブアムの道*に歩み、ヤロブアムがイスラエルに犯させた罪の道に歩んだ。

*ヤロブアムの子アビヤが死んだ地

- ひたすらヤロブアムの道*を歩んだバアシャ。勢力を拡大させ、南のアサ王も悩ませた。ヤロブアムより治世は長かったが…。





III. 混迷を極める北王国

I 列王記16章

サマリアの丘陵

北王国 イスラエル

【ヤロブアム王朝】

ヤロブアム

22年

ナダブ
2年

【バアシャ王朝】

バアシャ

24年

エラ
2年

ジムリ
7日

オムリ

12年

【オムリ王朝】

アハブ

22年

アハズヤ
2年

イゼベル

南のアサ王の時代に
北は6人の王が乱立

南王国 ユダ

レハブアム

17年

アビヤム
3年

アサ

40年

ヨシャパテ

25年

北3・バアシャ 預言者エフー | 列王記16:1~2

そのとき、ハナニ*の子エフー*に、バアシャに対する次のような【主】のことばがあった。

「わたしは、あなたをちりから引き上げ、わたしの民イスラエルの君主としたが、あなたはヤロブアムの道に歩み、わたしの民イスラエルに罪を犯させ、その罪によってわたしの怒りを引き起こした。」

*“慈悲深い”の子 * “ヤハウエは彼”

■ ヤロブアムに宣告した預言者アヒヤのように
バアシャに神の裁きを告げる預言者エフー。



エフライムの段々畑

北3・バアシャ 呪いの宣告 | 列王記16:3~4

「今、わたしはバアシャとその家を除き去り、あなたの家をネバテの子ヤロブアムの家のようにする。バアシャに属する者で、町で死ぬ者は犬がこれを食らい、野で死ぬ者は空の鳥がこれを食らう。」

- 遺体はまともに葬られず、野の獣の餌食に。
ここでの悲惨な死は、神の裁きの厳しさを示す。



荒野のジャッカル

北3・バアシャ バアシャの死 | 列王記16:5~6

バアシャについてのその他の事柄、彼が行ったこと、その功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

バアシャは先祖とともに眠りにつき、ティルツアに葬られた。彼の子エラ*が代わって王となった。

*“櫛の木” …櫛の木自体、しばしば偶像に。

■ 子孫への裁きは、裁きの猶予期間とも言える。

一族の悔い改めた信仰者は、神に救われる。

例) 丁重に葬られたヤロブアムの子アビヤ



エフライムの山地

北3・バアシャ 悪の末路 | 列王記16:7

【主】のことはまた、ハナニの子、預言者エフーを通してバアシャとその家に向けられた。それは、彼が【主】の目に悪であるすべてのことを行い、その手のわざによって主の怒りを引き起こしてヤロブアムの家のようになり、また彼がヤロブアムを打ち殺した*からである。

*ヤロブアムの子ナダブを打ち殺したこと

■ 邪悪な者をも主は裁きの器として用いるが、
用いられた者の邪悪さも、また厳しく問われる。



ハゲワシ

北4・エラ 短命の王 | 列王記16:8~9

ユダの王アサの第二十六年に、バアシャの子エラがティルツァでイスラエルの王となった。治世は二年*であった。

彼がティルツァにいて、ティルツァの宮廷長官アルツァの家で酒を飲んで酔っていたとき、彼の家来で、戦車隊の半分の長であるジムリ*が彼に謀反を企てた。

*王を殺したバアシャの子エラも部下に殺された。

*“わが音色” …重要なのはどんな音を奏でるか。

■軍の士官によるクーデターが勃発!!



戦車

北4・エラ 裁きの器ジムリ | 列王記10~12

ユダの王アサの第二十七年に、ジムリが入って来てエラを打ち殺し、彼に代わって王となった。

ジムリは王となり王座に就くと、すぐにバアシャの全家を討ち、小童から親類、友人に至るまで、一人も残さなかった。

こうして、ジムリはバアシャの全家を根絶やしにした。預言者エフーを通してバアシャに言われた【主】のことばのとおりであった。

■ バアシャ以上の残虐さで、一族を皆殺しにしたジムリ。



北4・エラ エラの末路 | 列王記16:13~14

これは、バアシャのすべての罪とその子エラの罪のゆえであり、彼らが罪を犯し、また彼らがイスラエルに罪を犯させ、彼らの空しい神々によってイスラエルの神、【主】の怒りを引き起こした*ためである。

エラについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

*バアシャ王朝の最大の罪も変わらず偶像礼拝



バアル神・雷神でもあり、雷の槍を持つ像が多い。

北王国 イスラエル

【ヤロブアム王朝】

ヤロブアム

22年

ナダブ
2年

【バアシャ王朝】

バアシャ

24年

エラ
2年

ジムリ
7日

イゼベル

【オムリ王朝】

オムリ

12年

アハブ

22年

アハズヤ
2年

バアシャ王朝も
悲惨な結末に

南王国 ユダ

レハブアム

17年

アビヤム
3年

アサ

40年

ヨシャパテ

25年

北5・ジムリ 七日王 | 列王記16:15~16

ユダの王アサの第二十七年に、ジムリが七日間ティルツァで王となった。そのとき、兵はペリシテ人のギベトン*に対して陣を敷いていた。

陣を敷いていたこの兵は、「ジムリが謀反を起こして王を打ち殺した」と言われるのを聞いた。すると、全イスラエルはその日、その陣営で軍の長オムリをイスラエルの王とした。

*かつてギベトン包囲中に王ナダブを殺した
バアシャ王朝は、ジムリに滅ぼされ、ジムリは、
ギベトン包囲していた自軍に殺された。



北6・ジムリ 自害 | 列王記16:17~18

オムリ*は全イスラエルとともにギベトンから上って来て、ティルツァを包囲した。

ジムリは町が攻め取られるのを見ると、王宮の高殿に入り、自ら王宮に火を放って死んだ。

*“主の弟子”

■ 悪循環し、悪化していく一方の負の連鎖。

ジムリ王の治世は、わずか七日に終わった。



北5・ジムリ 罪の末路 | 列王記16:19～20

これは、彼が罪を犯して【主】の目に悪であることを行い、ヤロブアムの道に歩んだその罪のゆえであり、イスラエルに罪を犯させた彼の罪のゆえであった。

ジムリについてのその他の事柄、彼が企てた謀反、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

■ジムリの治世は7日だったが、彼が偶像礼拝者であり、罪を重ねてきた者だと分かる。



北6・オムリ 北の内戦 | 列王記16:21~22

当時、イスラエルの民は二派に分裂していた。民の半分はギナテの子ティブニに従って彼を王にしようとし、もう半分はオムリに従った。

オムリに従った民は、ギナテの子ティブニに従った民より強かったため、ティブニが死ぬとオムリが王となった。ユダの王アサの第三十一年に、オムリはイスラエルの王となり、十二年間、王であった。六年間はティルツァで王*であった。

*“聡明な” …主の目には愚かでしかないが。

*治世の半分の6年は内戦に明け暮れたオムリ。



エフライムの山地

北6・オムリ サマリア | 列王記16:24~25

彼は銀ニタラント*でシェメル*からサマリア*の山を買い、その山に町を建て、彼が建てたこの町の名を、その山の持ち主であったシェメルの名にちなんでサマリア*と呼んだ。

オムリは【主】の目に悪であることを行い、彼以前のだれよりも悪いことをした。

*約68kg * “くず” “つまらないもの”

■ 高額の買い物だが、主の目には価値のない土地。それが、サマリア*。



北6・オムリ 重なる罪 | 列王記16:26～28

彼はネバテの子ヤロブアムのすべての道に歩み、イスラエルに罪を犯させ、彼らの空しい神々によってイスラエルの神、【主】の怒りを引き起こした。

オムリが行ったその他の事柄、彼が立てた功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

オムリは先祖とともに眠りにつき、サマリアに葬られた。彼の子アハブが代わって王となった。

■ オムリの評価も歴代の北王国の王同様。



繰り返す言葉と
重みを増す罪

エフライムの山地

北7・アハブ 最悪の更新 | 列王記16:29~30

オムリの子アハブ*は、ユダの王アサの第三十八年に、イスラエルの王となった。オムリの子アハブはサマリアで二十二年間、イスラエルの王であった。

オムリの子アハブは、彼以前のだれよりも【主】の目に悪であることを行った。

*“父の兄弟” …姦淫、近親相姦を暗示？

■深まるばかりの偶像礼拝、凄惨さを増す暴虐、しかし、それをさらに塗り替える人物がアハブ。

→最悪の時代に、最善の預言者エリヤが登場。



北7・アハブ 悪女イゼベル | 列王記16:31~32

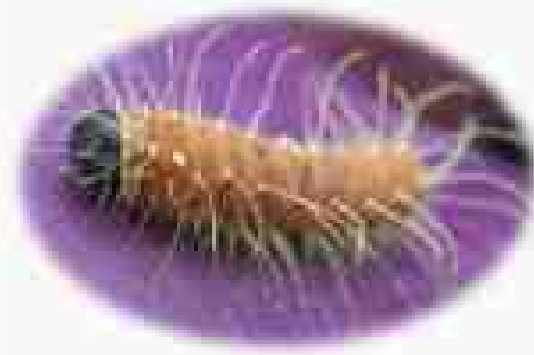
彼にとっては、ネバテの子ヤロブアムの罪のうちを歩むことは**軽いこと**であった。それどころか彼は、シドン人の王エテバル*の娘**イゼベル***を妻とし、行ってバルに仕え、それを拝んだ。

さらに彼は、サマリアに建てたバルの神殿に、バルのために祭壇を築いた。

*“バルと共に”

*“バルを讃える”“バルが夫”

■ヤロブアムの道すら、軽いとするアハブの罪。
最悪の要因は、悪女イゼベルを妻としたこと。



聖書の記す
史上最悪女



イゼベル蝶

北7・アハブ 極まる偶像礼拝 | 列16:33~34

アハブはアシェラ像*も造った。こうしてアハブは、彼以前の、イスラエルのすべての王たちにもまして、ますますイスラエルの神、【主】の怒りを引き起こすようなことを行った。

*豊穡の女神。バアル神の妻。

イゼベル自身も神格化されただろう。アハブも。



北7・アハブ エリコの罪 | 列16:34

彼の時代に、ベテル人ヒエル*がエリコを再建した。彼は、その礎を据えたとき長子アビラム*を失い、門を建てたとき末の子セグブ*を失った。ヌンの子ヨシュアを通して語られた【主】のことばのとおりであった。

*“神は生きている” →どの神？

*“わが父は高貴” * “高貴な” “意気揚々”

■最悪のアハブの時代に、神をも恐れぬ
不信仰者が預言を軽んじてエリコを再建。
その身に呪いの災いを招いた。



エリコの遺跡

北王国 イスラエル

【ヤロブアム王朝】

ヤロブアム

22年

ナダブ
2年

【バアシャ王朝】

バアシャ

24年

エラ
2年

ジムリ
7日

オムリ

12年

【オムリ王朝】

アハブ

22年

アハズヤ
2年

イゼベル

北王国は
最悪の時代へ

南王国 ユダ

レハブアム

17年

アビヤム
3年

アサ

40年

ヨシャパテ

25年



IV. まとめと適用

混沌の時代に希望を見いだすために

乾期のサマリア

【劣化する一方の北王国に学ぶ、罪と悪の本質】

- 北王国の王たちは、ことごとくヤロブアムの道を歩み続けた。
→最大の罪は、偶像礼拝。偶像礼拝が、北王国の罪の根っこ。
- “【主】の目に悪であることを行い、ヤロブアムの道に歩み、イスラエルに罪を犯させた。” →何度も繰り返される同じ表現。
- 罪と悪は、壊れたレコーダーのようだ。
陳腐で単調。無個性。同じ繰り返しの中で、ひたすら劣化していく。

壊れたレコーダーのような人生をどこかで送っていないだろうか

【北王国と南王国】

- **北**のヤロブアム、**南**のレハブアム。王の罪から始まった南北時代。
しかし、その後の歩みは大きく違ってくる。
- **北王国**が、ひたすら墮落し、悪化する一方。
南王国には、主に従う善王が現れ、靈的状况が盛り返されていく。
- **南王国**の背後にあるのは、主の守り。
→ 信仰者ダビデへの主の約束が、**南王国**を支え続けた。

今の私たちを支えるのは、すべての信仰者への主イエスの約束

【陳腐で単純で退屈な罪の循環から抜け出すために】

- 私が繰り返している罪とはなんだろう？
- 何も生み出さず、ただ時間と労力を浪費しているだけのものは？
一時で消える充足感を求めてアップダウンを繰り返すだけなら？
- 偶像礼拝は、欲望のその場しのぎ。積み重ねるものは何もない。
真実の主への礼拝、聖書の学びが、私の信仰を築き上げて行く。
- 南王国には、律法の礎があり、ダビデ契約の守りがあった。

真実に持続可能なのは、全知全能の神のご計画だけだと知ろう

【混沌の時代に希望を見いだすために】

■ 驚愕しては忘れ去られていく事件。ますます加速する罪の悪循環。激流の中に立たせられている私たち、足をすくわれるのは一瞬だ。流れ去るだけの本質でないものに、心を囚われないようにしよう。

■ 堅い岩盤の福音の上に、自分の信仰を打ち立てよう。

“神の子、**主イエス・キリスト**は、私の罪のために十字架にかけられ、墓に葬られ、死を打ち破って復活された。”

キリスト、メシアこそ、私たちの信仰の土台。聖書全体を貫く柱。聖書の学びを深めるほどにメシアを知り、私の命は強められていく。

変わらず続ける聖書の学びが、成長と変容を私にもたらす

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

かつてない混沌(こんとん)の中に 置(お)かれている私たちです。

主があたえてくださった 福音(ふくいん)の礎(いしずえ)に、

かたく立ち続けることができますように。

私たちは弱く、世の激流(げきりゅう)に 足をとられるのは

一瞬(いっしゅん)のことです。

どうか、主イエスの約束された、私たちの内に住まわれる

ご聖霊(せいれい)によって、この身(み)を守り、ささえてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」